

STEP 2 客観的指標の分析による地域特性の見える化

STEP 2-1 : 出生に関連する基本的な指標の状況を把握する

STEP 2-2 : 地域の様々な指標を収集し、活用する

STEP 2-3 : 出生に関連する指標の要因仮説を検討する

出生に関連する地域の様々な指標のデータを収集して、地域の特徴についてデータをもとに話し合い、少子化の要因に関してライフステージに沿った様々な観点から仮説を立てる

取り組み方のポイント

ワークシート

《STEP 2-1》

出生に関連する
基本的な指標の状況
を把握する
(p.30~33)

- ✓ 出会い・結婚に関連する**有配偶率**や平均初婚年齢、出産・子育てに関連する出生順位別（第1子・第2子・第3子～）**出生率**や、若年層・子育て世代の**転出入**に関するデータを収集・整理する
- ✓ レーダーチャートなどを活用しながら都道府県平均や他市区町村と比較して、**出生に関連する地域の現状を理解し、認識共有**する

出生に関連する
指標の特徴をまとめる
(p.8)

《STEP 2-2》

地域の様々な指標を
収集し、活用する
(p.34~41)

- ✓ 「**地域評価指標のひな型 / 使い方**」を活用しながら、地域の様々な分野に関する指標のデータを収集し、出生に関連する基本的な指標との関係性を分析する
- ✓ **データから推測される地域の特徴**について、グループワークによって意見を出し合い、要因仮説の検討につなげていく

地域の様々な指標を見て、
地域の特徴を考察する
(p.9)

《STEP 2-3》

出生に関連する指標の
要因仮説を検討する
(p.42~46)

- ✓ 地域の特徴の分析につながるよう、グラフやレーダーチャートなど、目的や用途にあわせて様々な形で**データを加工・見える化**して、メンバー間で認識共有を図る
- ✓ グループワークでの意見交換や、様々な分野のデータの比較を通じて、地域の少子化の要因について**ライフステージごとの仮説を設定**する

地域の様々な指標を
踏まえて要因仮説を
検討する
(p.10)

【解説】 出生に関連する基本的な指標の構造

結婚や出産に関する指標に加えて、若年層や子育て世代の社会増減の指標にも着目する

- ✓ 地域の出生を取り巻く指標については、合計特殊出生率や有配偶率、平均初婚年齢などの地域住民の結婚・出産に関する指標のほか、若年層・子育て世代の転出入など社会増減に関する指標にも目を向けることが重要である
- ✓ これらの指標を細分化（例えば第1子と第2子、第3子以降の出生率を分割）して整理して、具体的な状況を把握する

出生に関連する基本的な指標の構造

出生率



《結婚に関する指標》

- ・有配偶率（男女別）
- ・平均初婚年齢（男女別） 等

男女の**出会いの機会**の豊かさや、**経済状況**、**就労環境**などに加えて、それらを踏まえた**地域住民の結婚・子育てへの考え方**や、結婚をきっかけとした地域内外の転出入が関係があると考えられる

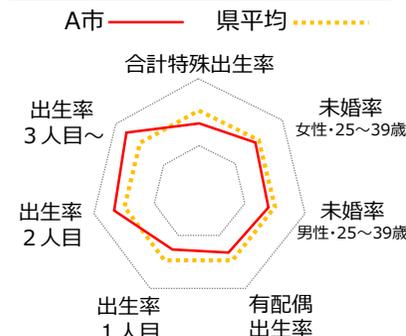
《出産に関する指標》

- ・出生順位別合計特殊出生率
- ・有配偶出生率 等

子育てに関する経済的負担や支援の状況、身内や**地域コミュニティによる支え**などが関係があると考えられる

（データの引用元） 国勢調査 / 人口動態統計 / 地域少子化・働き方指標 等

レーダーチャートなどを活用して都道府県や近隣市町村と比較して地域の状況を確認する



社会増減

“出生数”をはじめ様々な要素に影響を及ぼす

若年層の転出入
（15～24歳・男女別）

進学先・就職先の選択肢や**地域の魅力**などが関係があると考えられる



子育て世代の転出入
（25～39歳・男女別）

住環境、教育、医療・保健など子育てを取り巻く様々な環境と関係があると考えられる

（データの引用元） 国勢調査 / 住民基本台帳人口移動報告 / 市町村や都道府県が保有する転出入の関連データ 等

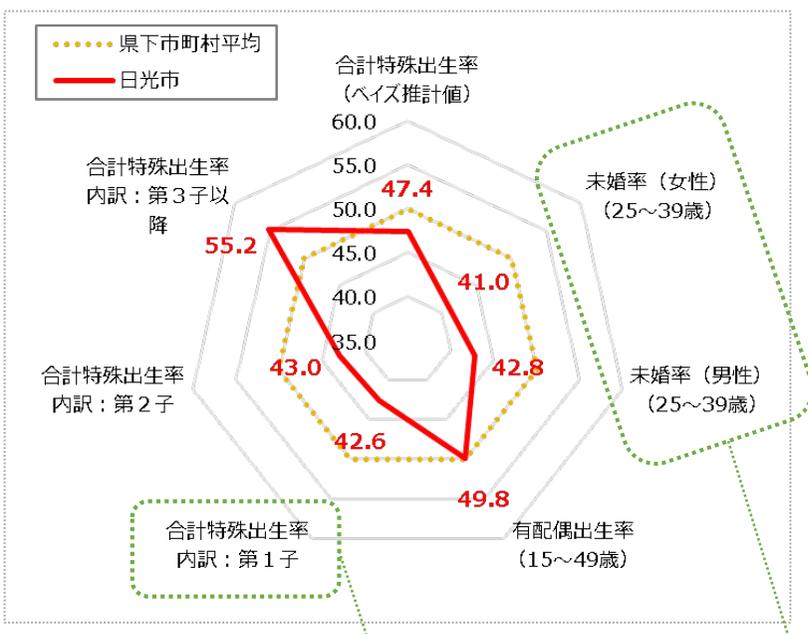
※レーダーチャートの作成方法や扱い方については、「**地域評価指標の使い方**」を参照

出生に関連する基本的な指標の状況をもとに、地域の現状についてメンバー間で認識を共有する

- ✓ 人口、出生率等の基礎的なデータをプロジェクトチーム内で共有し、少子化に関する地域の現状について理解し、問題意識を共有
- ✓ 各地方公共団体で作成している「地方版総合戦略」や「人口ビジョン」等で扱っている基礎データなども活用する

基本的な指標の状況把握の参考例

【栃木県日光市・2022年度】



《レーダーチャートの着眼点》

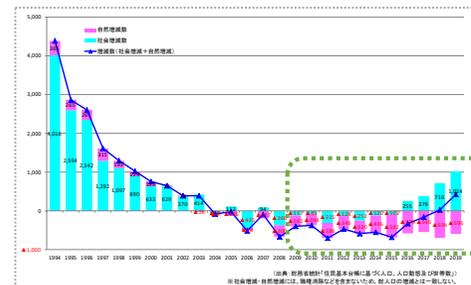
- ・ 県平均と比較して、日光市が他市より特に偏差値が低い点に着目して、優先的に取り組むべき課題の感触をつかむ

- ・『結婚のカベ』: 出会いの機会が少ないのではない
- ・『第1子のカベ』: 出産への不安や子どもを産む環境・就労環境が影響しているのではない

⇒ つづくSTEP3で実態を把握し、検証

【北海道江別市・2020年度】

… 自然増減と社会増減を経年で比較

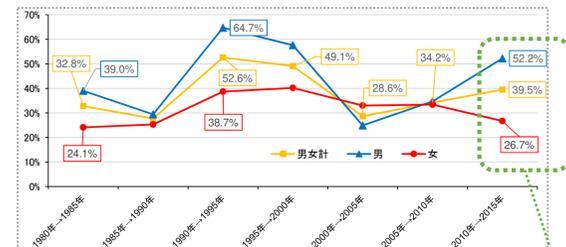


(資料) 江別市

近年で人口増に転じたきっかけは社会増にあることを確認

【兵庫県豊岡市・2020年度】

… “20歳代の転入超過数”の“10歳代の転出超過数”に占める割合を『若者回復率』と名付け、男女別に比較



(資料) 豊岡市「豊岡市人口ビジョン (2015年国勢調査反映版)」

若者回復率は男性より女性が低い傾向にあり、足下では女性は男性の半分となっている
= 女性の市内への流入を高める施策が重要

《ワーク》 出生に関連する指標の特徴をまとめる

- ✓ 出生に関連する指標と地域の様々な指標との関係性について整理して、少子化の要因仮説の立案につなげていくために、まずは出生に関連する指標の特徴について細分化した上でその特徴（地域別・属性別・時系列別 等）を書き出す

出生に関連する指標		出生に関連する指標の特徴 客観分析：県・全国値との比較／経年比較	地域の様々な指標を踏まえた 出生に関連する指標の要因仮説	参照した データ
有配偶率		(例) 20～30代前半で結婚している割合が、全国や県平均と比べて10%以上低い		
／合計特殊出生率 有配偶出生率	1人目	記載のPOINT 出生数にかかわる基本指標や人口ビジョン等の統計データを基に、全国や都道府県平均との比較、経年比較をした結果、地域の特徴（弱みだけでなく強みも含む。）を抽出して、事実を記載する	STEP2-3で作成	
	2人目			
	3人以上			
転出入	若年層			
	子育て世代			

(実践例) 出生に関連する指標の特徴をまとめる

基本的な指標の状況把握の参考例（長野県上田市・2022年度）

※STEP2-3の作業（今後の流れがわかりやすいように
便宜的に一部を抜粋して記載）

出生に関連する指標		出生に関連する指標の特徴 客観分析：県・全国値との比較／経年比較	地域の様々な指標を踏まえた 出生に関連する指標の要因仮説	参照した データ
有配偶率		<ul style="list-style-type: none"> 県・国と比較して未婚率は低く、結婚している人は多い 未婚率は全国値より低いが、1990年以降全国値と同様に上昇が続いている 	<ul style="list-style-type: none"> 市内在住者かつ市内通勤者の割合がかなり高いため、出会いの機会となる接点が多く（地域や勤務先）、未婚率が低いのではないかと 	<ul style="list-style-type: none"> 上田市人口ビジョン RESAS 地域評価指標のひな型
／合計特殊出生率 有配偶率	1人目	<ul style="list-style-type: none"> 市の合計特殊出生率全体の数値は全国値より高く、県とほぼ同様の数値となっていたが、2016年に全国値に近い数値まで低下。その後回復し、県との差は縮小してきているが、県平均以下となっている。 第一子の値は県平均よりわずかに高い 平均初婚年齢の数値は悪くない（女性28.9歳）が、そこから第一子出産の母の平均年齢までの開きが大きい 	<ul style="list-style-type: none"> 医療環境が弱く、不妊治療が十分に受けられない夫婦が多いのではないかと 夫婦どちらかが移住者またはどちらも移住者であり、育児への協力者がいないため出産しない夫婦が多いのではないかと 男女ともに正規社員の割合が高いため、仕事が忙しく、育児にかけられる時間がないのではないかと 	<ul style="list-style-type: none"> 上田市人口ビジョン 地域少子化・働き方指標 国勢調査 地域評価指標のひな型
	2人目	<ul style="list-style-type: none"> 第二子の値は県平均よりわずかに低い 	<ul style="list-style-type: none"> 所得は高いが持ち家率も高いため、ローン等で子育てにお金を回せない理由があるのではないかと 	<p>指標の良い面・悪い面それぞれに着目する</p> <p>今後の検討では様々な情報を活用して考察を深めることになるので、余力があれば理由について頭の体操してみる</p>
	3人以上	<ul style="list-style-type: none"> 第三子以降の値は県平均よりわずかに低い 	<ul style="list-style-type: none"> 第三子は保育料が無料なので、出産数は増える？ 	
若年層	<ul style="list-style-type: none"> 男女ともに10代～20代前半が大幅に転出超過 男女で比べると女性の方が転出過多となっている 経年でみると、男性の10代～20代の転出超過数は2010～2015年は減少している 	<ul style="list-style-type: none"> 地元に戻ってくるよりも都会で生活した方が結婚する相手の給与水準も高いのでは、と考える女性が多いのではないかと 	<ul style="list-style-type: none"> 上田市人口ビジョン 	
転出入	子育て世代	<ul style="list-style-type: none"> 男性は30代以降は転入超過となる 女性は20代後半～40代までは転入超過だが、その後再度転出超過となっている 	<ul style="list-style-type: none"> 結婚して子どもを産むまでは上田市在住だが、子どもができると生活費等の安い他市町村へ転出してしまおうのではないかと 	<ul style="list-style-type: none"> 上田市人口ビジョン

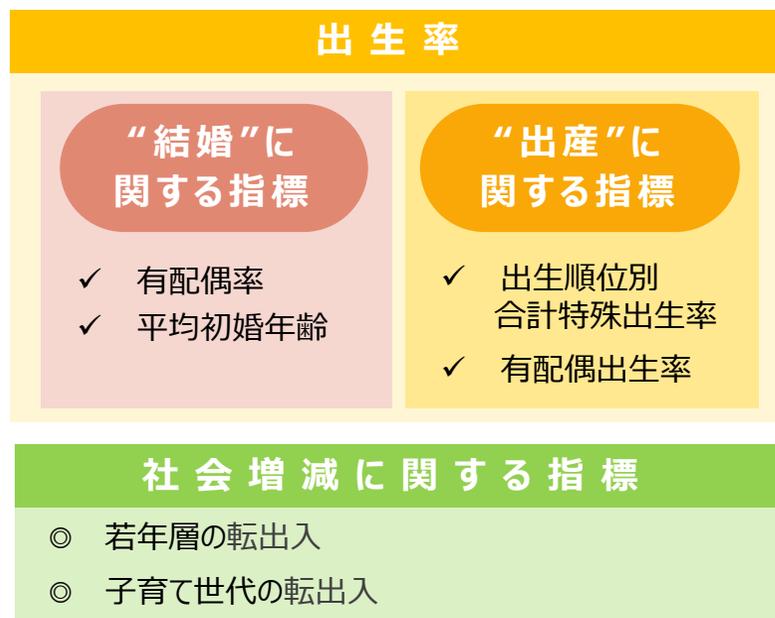
【解説】 地域の多様な指標を収集し確認する

出生に関連する指標には地域の様々な要素が影響していることを踏まえて、両者の関係性を調べる

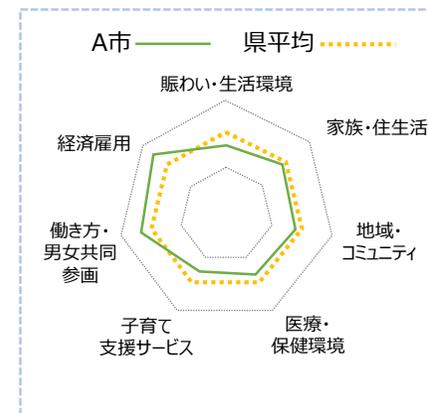
- ✓ 出生に関連する指標に影響を与える主な指標の例としては、賑わい・生活環境、家族・住生活、地域・コミュニティ、医療・保健環境、子育て支援サービス、経済雇用、働き方・男女共同参画などが考えられる
- ✓ これらの要素について、細分化した出生に関連する指標との関係性を見比べ、地域の課題に関する仮説の設定に活かす

出生に関連する指標に影響を及ぼす、地域の様々な指標

《地域の様々な指標》



「地域評価指標のひな型」と「地域評価指標の使い方」を活用して、レーダーチャートの形で各指標の地域間比較を行う



“出生に関連する指標”と“地域の様々な指標”との関係性については、

- ◎ 有配偶率か平均初婚年齢か / ◎ どの年代の転出入か / ◎ 出生率でも第1子が第2子が第3子以降か など、要素の区分によって因果関係や影響の与え方は異なるため、具体的に数値を見比べて関係性を検討することが重要

地域の様々な分野の指標を収集して、出生に関連する指標との関係性を分析する

- ✓ 「地域評価指標のひな型」で紹介している以下の様々な指標の例を活用しながら、幅広い分野の指標を収集・分析する
- ✓ ここに記載されている指標以外にも、様々な視点から関連すると思われる指標を洗い出すことが重要である

地域の様々な指標の参考例

分野	構成要素（評価対象）	地域の様々な指標の例
賑わい・生活環境	生活利便性 自然・緑地 まちの活気 教育環境	・大型小売店数 / ・娯楽業事業所数 ・都市公園等の面積
家族・住生活	住生活 家族、親族	・持ち家世帯の比率 ・3世代同居率
地域・コミュニティ	近所づきあい、地縁活動 市民活動、NPO まちへの愛着・誇り 安心・安全 こどもの存在	・子どもの健全育成に関するNPO数 ・消防団団員数 ・刑法犯認知件数
医療・保健環境	医療 保健	・産婦人科医数 / ・小児科医数 ・保健師数
子育て支援サービス	保育 子育て支援サービス	・地域子育て支援拠点数 ・待機児童数（0～5歳人口あたり）
働き方・男女共同参画	通勤時間 男女共同参画 企業の取組	・通勤時間 / ・女性労働力率（20～44歳） ・くるみん認定企業数・割合
経済雇用	産業 所得 雇用 生活コスト	・課税対象所得 ・男性・女性の正規雇用者比率

市区町村別の数値が取れない場合には、**都道府県**や**民間の独自データ**も活用する

また、出生との関係性にとられすぎず、**地域の特徴を幅広い視点から拾い集める**

市区町村の中でも複数の地区（例えば合併前の区分）にわけて収集可能なものはそれらの**地区間分析**も有用である

「**地域評価指標の使い方**」では、7分野22項目の地域の様々な指標について、統計データの収集方法を紹介！

1. 地域評価指標について②

A. 賑わい・生活環境について

①少子化対策との関係性の考え方（指標を抽出した観点）

- 生活利便性が高い、若者が地域に集まり、出会いの機会が増える
- 自然・緑地が多いため、こどもが遊べる環境が整い、子育てしやすい環境となる
- まちの活気があると、住民の交流の機会が増え、出会いの機会が増える
- 教育環境が充実していると、特に子育て世代の女性の力アップにつながる

【「地域評価指標のひな型」で紹介している指標】

- 生活利便性
 - ◎ 大型小売店数【A1】
 - ◎ 医薬品・化粧品小売業 事業所数【A2】
 - ◎ 飲食店 事業所数【A3】
 - ◎ 娯楽業 事業所数【A4】
 - ◎ コピエ店舗数【A5】
- 自然・緑地
 - ◎ 自然公園面積【A6】
 - ◎ 都市公園等の面積【A7】
- 教育環境
 - ◎ 全日制・定時制高校の学校数【A8】

※ ①dp.26-27で7分野22項目の指標方法・URLを紹介。●は都道府県と連携して収集。

【政府の統計調査等の参考例】

- 総務省「経済センサス-店舗調査」
 - … 産業別の事業所数や専任従業員数等の、経済活動に関するデータを公表。（毎月20日発表、14年ごと更新）
- 総務省「分府県地価調査」
 - … 公共施設等について、施設種別別（面積や数値など）と地区別（1区）を公表。（毎月20日発表、毎年更新）
- 経済産業省「商業活動統計調査」
 - … コピエや百貨店等の業種別で、販売額や従業員数などを公表。（毎月更新）
 - ※ 事業所の業種別の集計あり、市区町村別はなし
- 文部科学省「社会教育調査」
 - … 公民館や生涯学習施設化社会教育に関する施設の事業所数や利用状況に関するデータを公表。（毎月20日発表、3年ごと更新）

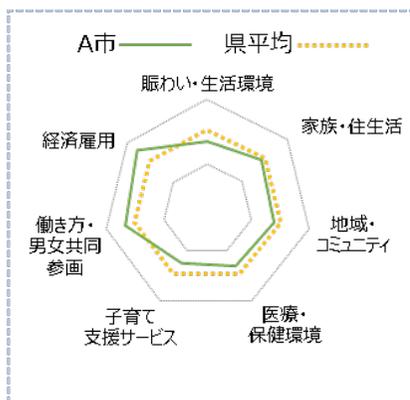
【少子化に関する豊田商研の特定で扱った評価の一例】

- ・ 得意のある店舗が少なく、平日の買い物客層で非常に異なる場合が多いのではないかと
- ・ 身近な業種や事業所が数多くあると考え、飲食店や娯楽施設、便利な店舗が整っている点には
- ・ 高校はあるが、地域とのつながりや地元への愛着意識、卒業後の進路とつながっている点には不明

「地域評価指標のひな型 / 使い方」を利用して、地域の様々なデータを収集する

- ✓ 「地域評価指標のひな型」では、地域の様々な指標（7分野22項目）のデータを入力すれば、他地域との偏差値による比較をレーダーチャートによって見える化することができる
- ✓ 「地域評価指標の使い方」では、ひな型の使い方や、データの収集をサポートする様々な分析ツールを紹介している

地域評価指標のひな型 / 使い方について



【「地域評価指標のひな型」を活用するメリット】

- ◎ 結婚・出産・子育てに関連する地域の様々な指標について、他の市区町村や都道府県との比較によって、**地域の特性の「見える化」をサポート**する
- ◎ 7つの分野間比較に加えて、各分野を構成する項目間の比較も可能としており、**どの点がある分野の強み・弱みなのかを掘り下げて調べることが可能**

【「地域評価指標のひな型」の利用手順】

- ① 「使い方」で紹介しているデータの取得方法の記載を参考にして、各統計調査のホームページからデータを**収集**する
- ② ①で収集した地方公共団体のデータを、ひな型の入力用シートに**入力**する
※独自に集めたデータも入力可能
- ③ 必要なデータの入力が済めば、エクセル内の関数によって**自動的にレーダーチャートが完成**

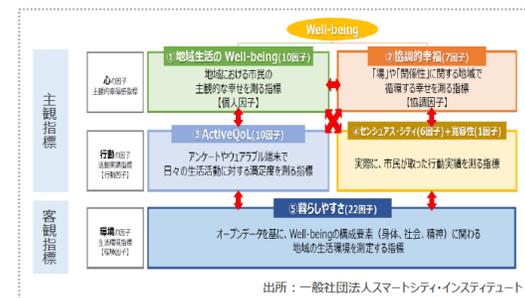
※詳細については、「地域評価指標の使い方」を参照

【「地域評価指標の使い方」について】

◎「ひな型」の利用方法や、7分野22項目のデータの**収集方法**を紹介しているほか、

◎ データの収集・分析をサポートする関連ツールとして、**RESAS**や**地域幸福度 (Well-Being) 指標**などの**様々な分析ツールについて紹介**

⇒ あくまで、ひな型で紹介する指標は地域特性を把握するために参考となるデータの一部をまとめたものであり、**これらのツールは、地域の少子化対策に限らず、幅広い分野にわたって様々な用途での活用が可能！**



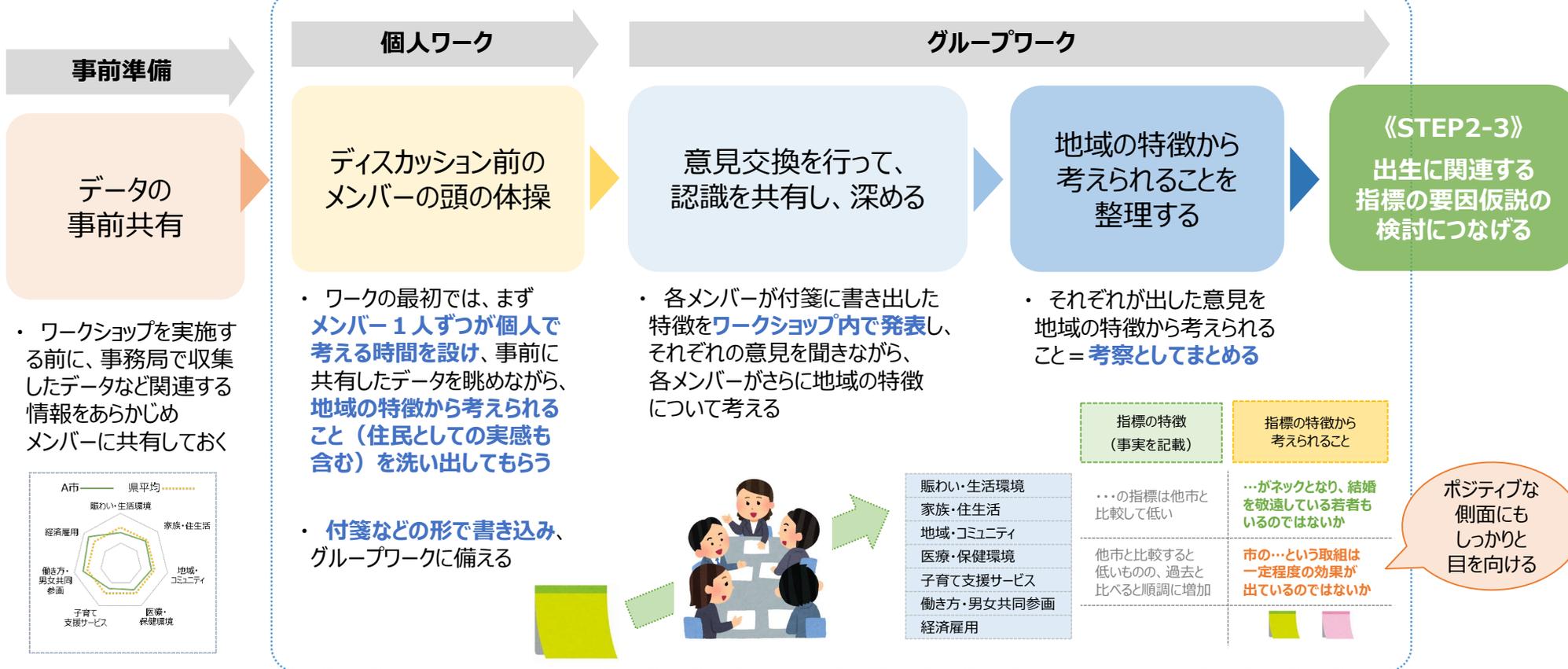
【解説】 グループワークで地域の特徴について意見を出し合う

地域の特徴についての考察にあたっては、グループワークを行って意見を発散させることも有効

- ✓ 地域の特徴から考えられることをまとめるにあたっては、メンバーの様々なアイデアを取り入れて幅広い視点から検討を進めていくことも重要であるため、ワークショップを開催してグループワークを行うことも有効である
- ✓ ワークショップで行うグループワークについては、例えば以下のような手順などが考えられる

グループワークの手法として考えられる例

《STEP2-2・ワークショップ》



- ✓ 地域評価指標のひな型等を参考に、出生に関連する指標に影響を与えると考えられる地域の様々な指標の特徴と、そこから考えられることを記載する

分野	地域の特徴（事実を記載）	考察（特徴から考えられることを記載）
賑わい・生活環境	(例) 人口あたりの商業施設数が周辺自治体と比較して高い	(例) 賑わいがあることで、若者が集まり、出会いの場につながっているのではないか
家族・住生活	記載のPOINT 数値が低いところ（弱みになりそうなところ）だけでなく、周辺自治体等と比較し高い／優れている点も記載することで、STEP3以降で地域の強みや地域資源の検討に活かせる場合がある	
地域・コミュニティ		
医療・保健環境		
子育て支援サービス		
働き方・男女共同参画		
経済雇用		

(実践例) 地域の様々な指標を見て、地域の特徴を考察する

地域の特徴の考察の参考例（長野県千曲市・2022年度）

分野	地域の特徴（事実を記載）	考察（特徴から考えられることを記載）
賑わい・生活環境	・県内の市で比較すると、大型小売店数や人口あたり高校数は少ないが、 衣料品・化粧品・小売業事業所数は多い	・若者の求める店が少なく、休日の買い物や食事では上田市や長野市にいくことが多い ・ 身近な買い物は仕事帰りに寄れる店が沢山あって便利
家族・住生活	・県内の市で比較すると、 持ち家世帯率・住宅延べ面積・一戸建て比率・3世代同居率のすべての指標が高い	・ 土地が安く家が建てやすい ・子育て世代の転入が多い ・古い家が多く、空き家が多くなった
地域・コミュニティ	・県内の市で比較すると、身近にいる子ども数だけが平均を越えているが、概ね平均なみ	・山のほうは結びつきが豊かだが、中心地はそうでもない ・ 区や公民館活動は活発（お祭りが多い） ・スポーツ少年団が減っている
医療・保健環境	・県内の市で比較すると、人口あたりの保健師数・産婦人科医師数・ 小児科医師数のすべてが平均以下	・ 小児科が少なく緊急・夜間診療のできる場所がない （近隣にはある） ・出産できる産科がない（近隣にはある）
子育て支援サービス	・県内の市で比較すると、 0～2歳当たり地域子育て支援拠点数は低い が、保育所等利用児童割合（0～5歳人口比）は高い	・ ファミリーサポート事業の利用者が増加している ・未満児の保育園や長時間保育の利用が増えた ・ママ友サークルは多い
働き方・男女共同参画	・県内の市で比較すると、 通勤時間は他市より多い が、他の指標は概ね平均なみ	・長野市や上田市など他市への通勤が多く、道が混む ・男性の育休取得に積極的に取り組む企業が少ない
経済雇用	・県内の市で比較すると、昼夜間人口比や20～44歳の完全失業率は良くないが、 男性の正規雇用者比率は高い	・大企業が少なく、若者の働く場がなく市外に働きにくい ・職種求人に偏りがあり、全般的には 慢性的な人手不足 ・ 女性の正社員が少ない

ポジティブな側面にもしっかりと目を向ける

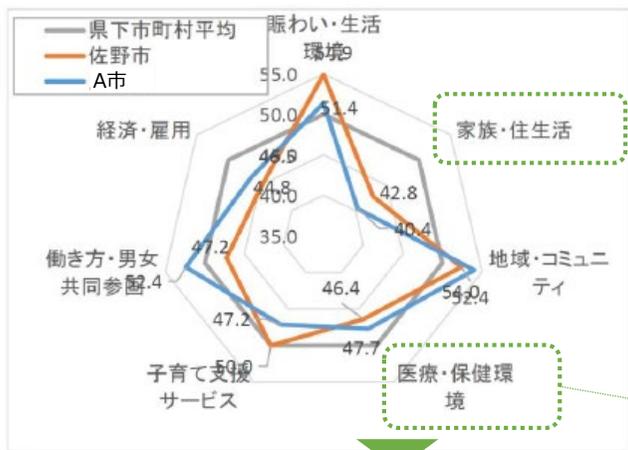
データが示す事実と、地域住民としての実感を突き合わせて、

特定の指標の数値は低いが、**他の面からみると強みとなりえるポイントはないか**を探してみる
(逆に**弱点**も同様に探す)

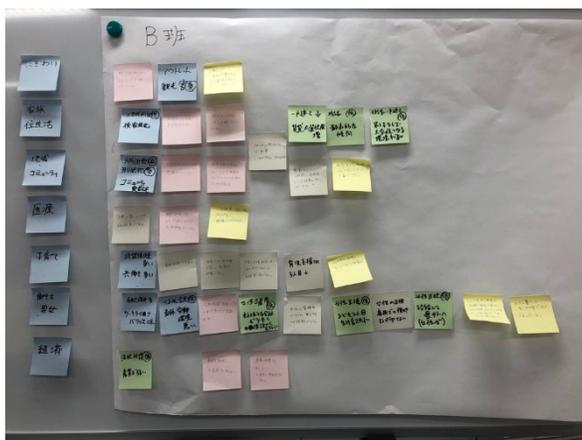
(実践例) 地域の様々な指標を見て、地域の特徴を考察する

地域の特徴の考察の参考例（栃木県佐野市・2022年度）

①地域評価指標のひな型等を活用してデータを整理



②ワークショップを行い、チームメンバーの間で地域の特徴から考えられることを意見交換



・ポジティブな要素、ネガティブな要素、中立・定性的な要素など、データの評価によって異なる色の付箋を使い、わかりやすく可視化する

③各チームの検討結果を基に、地域の特徴と考察をとりまとめて、STEP2-3の少子化に関連する指標の仮説の検討につなげていく

分野	わがまちの特徴（事実を記載）	考察（特徴から考えられることを記載）
賑わい・生活環境	<ul style="list-style-type: none"> 人口1万人当たりの大型小売店数、医薬品・化粧品小売り業事業所数、飲食店事業所数、娯楽業事業所数、婦人服・子供服小売業事業所数のいずれも、平均を上回っている。 特に婦人服・子供服小売業事業所数は県内で2番目に多い 	<ul style="list-style-type: none"> 小売店舗が多いので、日用品が市内で買える。 女性や子どもが他市と比較して多いのではないが、駅前があまり活発ではない。 賑わいはアウトレットヒオンによって引き上げられている。 賑わいがあり、それが出会いの場に結びついているのでは。
家族・住生活	<ul style="list-style-type: none"> 住宅延べ面積、一戸建て比率とも平均を下回る。 持ち家世帯率、3世代同居率は大きく平均を下回る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元ではない世帯、アパート住まい世帯が多いのではないが、子どもの面倒を見てくれる人が近くにいない。 賃貸物件が多い、都市的な傾向がみられる。 同居せずに近隣に賃貸で住む人が多いのではないが、3人以上を育てるスペースや人手が不足している。 正規雇用者が少ないため、戸建て持ち家が少なく、市内に短大があることから、学生の住みが多いのでは。
地域・コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> 0-17歳の人口密度は平均をやや上回る。 消防団員数は平均を下回る。 刑法犯認知件数が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 隣近所との関わりが少ない、警戒心が強い。 地元ではない世帯の転入で消防団加入が少ないのでは。 地域の関係性が希薄。コミュニティへの愛着不足。 刑法犯が少なく、見守り体制ができていいるのでは。 地元に残る若者が少ないのでは。
医療・保健環境	<ul style="list-style-type: none"> 保健師数は平均を大きく下回る。 人口当たりの産婦人科医師数と小児科医師数はほぼ平均である。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健師が少なく、子育ての不安やストレスを話す機会がない。 有配偶率が高いのに1人目が少ない →不妊や子どもを持つ不安。 医師に比べ保健師が少ない→産前・産後フォローが少ない。
子育て支援サービス	<ul style="list-style-type: none"> 地域子育て支援拠点数は平均を下回る。 0-17歳人口1万人あたり障害児入所施設、児童発達支援センターの施設数はほぼ平均である。 小学校児童数当たりの放課後児童クラブ登録児童数が平均を大きく上回る。 0-5歳人口に対する保育所利用児童数は平均を下回る。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育所利用児童数が少ない →産後離職が多く、女性労働力が減少しているのでは。 放課後児童クラブ登録児童数が多い →共働きが多いのでは。働きやすい環境と言えるのではないが、育児支援がなく、出生率が低いのでは。 希望する保育所に入らぬのでは。 祖父母に子どもを預けるのが難しいのでは。 支援が行き届かないこともあるのでは。
働き方・男女共同参画	<ul style="list-style-type: none"> 通勤時間は近隣市よりも短い。 結婚、出産期の女性労働力率やくみん認定企業割合は平均を下回り、特に女性管理職の割合は大きく下回っている。 市議会議員に占める女性割合が近隣市と比べて低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 通勤時間が短い→市内・近場で働く人が多いのでは。 女性労働力率が低い→労働条件のミスマッチがあるのでは。 くみん認定が少ない →仕事と育児の両立しやすい職場が少ないのでは。 公共交通機関が充実しているのでは。 女性議員が少ない →女性視点の施策や意見が遅れているのでは。
経済雇用	<ul style="list-style-type: none"> 昼夜間人口比はほぼ平均である。 課税対象所得は平均程度であるが、正規雇用者の比率が平均以下である。 完全失業率が平均以下である。 特に女性の正規雇用者の比率が平均を大きく下回る。 	<ul style="list-style-type: none"> 女性は妊娠・出産を機に退職し、パートになっているのでは。 正規雇用者が少ない→子ども2人目を産み育てやすいのでは。また、結婚して県外へ転出してしまっているのでは。 課税所得が低い→産業が弱いのでは。 結婚・出産を機に自身のキャリアを諦めざるをえない職場環境が市内企業に多くあるのでは。 若い年代の時に給料が少ないため、経済的に結婚・出産に前向きになれないのでは。

・偏差値が比較的低い指標に目を向けて、地域の特徴から課題のヒントを探してみる

出生率の要因を探るためには、データに加えて地域の様々な要素に着目することが重要

- ✓ 出生率にはデータだけでなく地域の風土や考え方などが複雑に絡み合っていることから、様々な視点から検討することが重要

地域の出生率に影響を及ぼす要因の分析に関する調査研究（内閣官房・2021年）

地域における出生数や出生率の向上に資する取組等に関する調査研究（内閣官房・2019年）

【事業の趣旨】

… 比較的高い出生率を維持又は出生率が向上している市町村や、行政や民間において出生数や出生率の向上に資する効果的な取組が行われていると考えられる市町村等を主な対象として、出生率に影響を与えていると考えられる文化的・歴史的な要因や、行政及び民間による出生数・出生率の向上に資する取組を調査し、統計データや指標を用いた比較結果と合わせ、高い出生率に影響を与えている要因の分析を行った。

《調査方法》 統計データや指標を用いた都道府県との比較による分析 / ヒアリング調査

【調査結果（要因分析のまとめ）】

《結婚・子育てに関する考え方、家庭・子育てと仕事の両立》

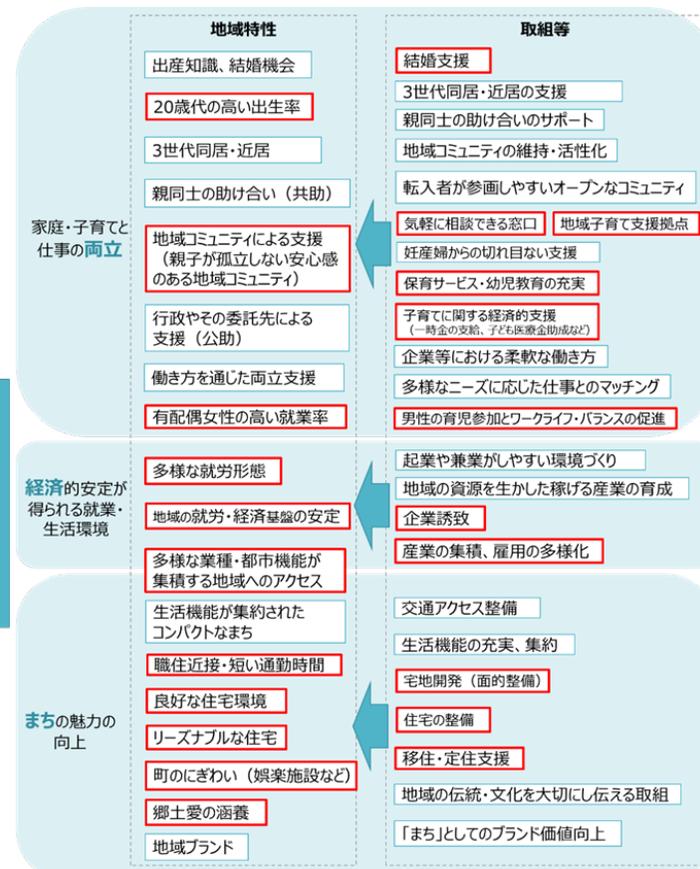
… 結婚や出産・子育てに関する考え方や仕事と子育ての両立に関する取組は、家族形成やライフスタイルなどの人生設計を描く上で大きな影響を及ぼし、女性の未婚率、平均初婚年齢、出生順位ごとの母の平均年齢の低下などを後押しする重要な要因となることが考えられる。

《経済的な安定が得られる就業・生活環境》

… 出生率が比較的高い・向上している市町村には、産業的に安定したところや交通面の条件に恵まれたところが多く、比較的安定した雇用があることで出生率プラスの効果が大きいとみられる。ヒアリングでは、安定した仕事と収入で人生設計がしやすく、早くに結婚につながり、子育てが促進されたとの声が聞かれた。

《まちの魅力》

… 出生率が比較的高い・向上している市町村では、郷土意識はおしなべて強いと感じられた。町のにぎわいの確保や住環境の充実とともに、郷土意識が高いほど、若い世代の地元への定着やUターンの増加につながり、地域内での結婚への意欲・機会の向上に影響を及ぼすことが考えられる。

出生数・出生率に関連があると
考えられる地域特性と取組等

(注) □ で囲んでいるものは、今回の調査で特に特徴的なものとして取り上げたもの

【解説】データの収集や加工に留意し、有用な分析につなげていく

地域の特徴の把握につながる様々な指標を収集し、比較したい内容や目的にあわせて加工する

- ✓ 地域の特徴を把握するための様々な指標については、比較したい内容や目的にあわせて、違い・差がわかりやすい形に加工する
- ✓ 地方公共団体ごとの状況に応じて重点的に比較したい分野や指標は異なるため、指標の選定から設計を考えることが望ましい

データの収集から加工、見える化までの進め方

データの収集

分野設定と、
分野ごとの
指標の選定

- ・ 結婚・出産・子育てに関連する特徴をできるだけ幅広く把握・分析できるように分野と、指標を設定する

⇒ 指標の例については、STEP2-2を参照

現状整理が目的であり、個別の指標の結果に一喜一憂しない

指標はあくまで分析の材料の一つであり、評価には一定の限界があることに留意する

比較対象の選定

- ・ 都道府県平均や近隣の他市区町村など、比べたい内容によって比較対象を選定する
- ・ 市町村間の比較では、人口規模や産業構造、都市圏との関係性といった類似点・相違点をもとに、適切な比較対象の選定や結果の評価に留意する

データの収集作業

- ・ 国の統計や都道府県の公表データを使って、選定した指標の**最新データを収集する**
- ・ 指標によっては人口あたり（総人口、子ども数、女性人口）の数値にすることも有効なため、比較が適切な形に加工できるよう、**周辺データも収集する**

データの加工・見える化

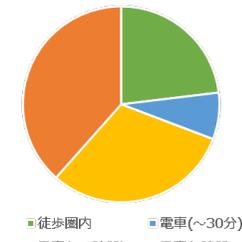
収集したデータで明らかにしたい＝メンバー間で共有・議論したい内容をわかりやすく反映できるよう、**データの見せ方**にも注意する。



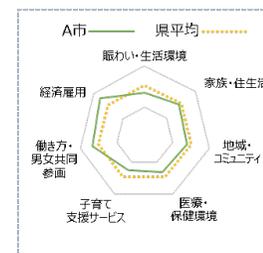
《棒グラフ》
地域間の比較に有効



《折れ線グラフ》
経年比較に有効



《円グラフ》
要素ごとの状況を割合化



《レーダーチャート》
分野横断的な状況や、分野ごとの指標の状況について、全国平均や都道府県平均、他の市区町村との比較するには**偏差値化**して比較することも有効

【解説】 集めた指標を基に地域の特徴を分析する

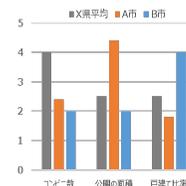
指標の比較によって特徴を把握し、今後のSTEPで検証を行うことを念頭に仮説を検討する

- ✓ 出生に関連する指標と地域の様々な指標の特徴・関係性を踏まえて、地域の少子化の要因に関する仮説を検討する
- ✓ 分析を行う上での基本的な考え方の参考例は以下のとおり

地域の特徴の分析に関するイメージ

《特徴を把握するための視点の参考例》

- **他地域比較**（全国平均、県平均、類似地域） … 複数の指標を他地域と比較して**自地域の位置づけを把握する**
- **属性別比較**（男女、世代、家族構成） … 属性ごとの特徴を整理し、**注力して支援すべき対象のあたりをつける**
- **時系列比較** … 時間による変化を確認し、**急激な差が生じている時期があれば当時の出来事を確認する**



《指標を分析する際の考え方の参考例》



- 単独の指標の状況だけでなく、**複数の指標をつかっ**て地域の構造的な特徴をつかむ。また、数値の大小だけでなく割合（%）にも着目する
- 例えば、出生に関連する指標について確認した後、地域の様々な指標を確認し、**指標間の相互の関係性を考える**。その際、他地域や時系列の比較によって、相互の関係性についてあたりをつける（例えば、同時期か前後の時期に別々の指標が同じ方向の動きをしているなど）
- 属性別や時系列で見たときの特徴は、他地域でも同じ傾向がないか確認する。**広域的なトレンドであれば**、対応策の検討の際に自地域独自の対策では解決が難しく、**近隣の地方公共団体や都道府県の協力も必要となる可能性に留意する**

これらの指標を用いた分析を踏まえて、**“地域の様々な指標を踏まえた出生に関連する指標の要因仮説”**を設定する

今後、STEP3以降で深掘りした情報収集（アンケート・ヒアリング調査等）を行って仮説を検証し、その上で課題の分析や対応策の検討・実行に結びつけていくことを念頭に、**取り組むべき課題などのイメージに結びつけながら各指標の動向や指標間の相互の関係性を見極めることが重要**

《ワーク》 地域の様々な指標を踏まえて要因仮説を検討する

- ✓ 地域の様々な指標の特徴を整理した上で、出生に関連する指標の特徴につながっている要因仮説は何かを検討して記載する

出生に関連する指標		出生に関連する指標の特徴 客観分析：県・全国値との比較／経年比較	地域の様々な指標を踏まえた 出生に関連する指標の要因仮説	参照した データ
有配偶率			(例) 女性の正規雇用者比率が高いことがわかった。製造業で多くの若い女性が働いているが、労働環境に問題があるのではないか。	
／合計特殊出生率 有配偶出生率	1人目	STEP2-1で作成	記載のPOINT 要因仮説の検討にあたり、既に関連するヒアリングやアンケート調査などを実施していれば、それらも参照する	
	2人目			
	3人以上			
転出入	若年層			
	子育て世代			



ワークブック：p.10

出生に関連する指標の特徴と仮説の参考例（新潟県加茂市・2021年度）

出生に関連する指標		出生に関連する指標の特徴 客観分析：県・全国値との比較／経年比較	地域の様々な指標を踏まえた 出生に関連する指標の要因仮説	参照した データ
有配偶率		<ul style="list-style-type: none"> 特に25歳～34歳までの有配偶率が全国、新潟県と比べて低い（2015年） 2010→2015年で比較すると、有配偶率は低下 隣接する田上町と並んで県内で低い数値 全国や新潟県、他市町村と比べて、結婚・子育てをしていく上で関係すると思われる指標・偏差値が良くない(通勤時間が長め、女性の正規雇用の割合が高い、完全失業率が高い、課税対象所得が低いなど) 	<ul style="list-style-type: none"> 結婚を機に転出する人が多いと推測される。結婚、妊娠、子育ての上で、まちの魅力が少ないのではないか【賑わい・生活環境】、【医療・保健環境】、【子育て支援サービス】 職場との距離、生活の利便性（商業施設）、公共施設が老朽化して古びていることなどから、結婚を機に加茂市から転出する人が多いのではないか【賑わい・生活環境】、【働き方・男女共同参画】、【経済・雇用】 	<ul style="list-style-type: none"> 国勢調査（2010年、2015年） 地域評価指標のひな型
／合計 有配偶 出生率	1人目	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均、県平均より低い 有配偶出生率は県内20市の中で最も低い（2015年） 	<ul style="list-style-type: none"> 第1子の合計特殊出生率が新潟県や全国平均と比べて低いが、第2子では差が小さくなり、第3子以降の合計特殊出生率は高いことから、出産する女性は少ないが、子ども数自体は多いのではない 2人目が改善傾向にあることから、子育てはしやすい環境なのではないか、そのことについて一人目を生んでから実感するのではない。また、保育園、学校は施設は古いが多いため、近所にあって便利なのではないか 3人目が平均と同程度なのは、祖父母などのサポートが受けられているからではないか【家族・住生活】 	<ul style="list-style-type: none"> 地域少子化・働き方指標（第1版～第4版） 地域評価指標のひな型
	2人目	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均、県平均より低い 2008～12年 → 2013～17年で比べると0.02改善 		
	3人以上	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均、県平均とほぼ同じ数値 		
転出入	若年層	<ul style="list-style-type: none"> 20歳代の転出・転入率を見ると、県平均と比較して転出割合が高く、転入割合が少ない。男女ともにこの傾向だが、女性が特に顕著 20～24歳の東京圏への転出が活発（同年代の転出者の約3割） 	<ul style="list-style-type: none"> 就学・就職などをきっかけに転出し、そのまま就職・結婚する人が多いのではない【経済・雇用】 若い女性にとってまちに魅力がないのではない【賑わい・生活環境】 県内の専門学校や大学に行っても、就職で東京圏へ転出するのではない（専門性を生かせる仕事がないのではない）【経済・雇用】 	<ul style="list-style-type: none"> 住民基本台帳人口移動報告（2015年） 国勢調査（2015年） 住民基本台帳に基づく都道府県及び市区町村別詳細分析表
	子育て世代	<ul style="list-style-type: none"> 25～34歳の女性の転出理由は戸籍が43%、次いで職業で38%となっている 出産できる産科がない 0～9歳人口に対する小児科医の数は多い（県1位） 		

※【】の部分は、地域評価指標のひな型で参照した指標が含まれる分野を表す。

出生に関連する指標の特徴と仮説の参考例（京都府宇治市・2021年度）

出生に関連する指標	出生に関連する指標の特徴 客観分析：府・全国値との比較／経年比較	地域の様々な指標を踏まえた 出生に関連する指標の要因仮説	参照したデータ	
有配偶率	<ul style="list-style-type: none"> 有配偶率は49.1%であり、京都府平均よりは高いものの、全国値より低い 20代の値は全国値より低いが、30代において全国値並みとなり、晩婚化の傾向が見られる 近隣市町村（府南部）においても有配偶率は低い 	<ul style="list-style-type: none"> 女性の就業比率が低く、職場における出会いの機会が少ないのではないかと考えられる 市内通勤率が低く、かつ通勤時間が長いこと、生活時間のゆとりが少ないと考えられる 男女の雇用均等※が低い数値となっていることから、職場における出会いの機会が少ないと考えられる 		
／合計特殊出生率 有配偶率 出生率	1人目	<ul style="list-style-type: none"> 全国と同程度 第1子の低さ（全国と同程度）は近隣市町村（府南部）においても共通して見られる 	<ul style="list-style-type: none"> 京都府 地域子育て環境「見える化」ツール 国勢調査 	
	2人目	<ul style="list-style-type: none"> 全国と比較し、第2子の出生率が高くなっている 第2子の高さの特徴がある 		<ul style="list-style-type: none"> 第2子の高さは1子子育て世帯が京都市から転入してきていることが考えられる。理由として保育の多様性の高さや住宅環境が考えられる 人々のつながり※や、子どもの頃の経験※といった評価要素において、京都市と差が見られたことから、地域のつながりを求めた転入が考えられる
	3人以上	<ul style="list-style-type: none"> 全国と同程度 		<ul style="list-style-type: none"> 第2子を育てやすい環境があるとすれば、第3子の出生率向上につながっている可能性がある
転出入	若年層	<ul style="list-style-type: none"> 20代において転出超過が顕著であり、京都市や大阪、関東への転出が多くなっている 0～4歳及び15～19歳において転入超過が続いている 	<ul style="list-style-type: none"> 20代が都市圏へ流出していることから、就職の機会において転出していることが原因と考えられる 0～4歳、30～34歳において京都市からの転入が最も多く、子育て世帯が京都市から転入している 	<ul style="list-style-type: none"> 宇治市人口ビジョン 総務省「住民基本台帳人口移動報告」
	子育て世代	<ul style="list-style-type: none"> 6歳未満の子供がいる世帯の転入元では京都市からの転入が最も多く、次いで大阪府やその他関西が多くなっている 転出先では、京都市を除く京都府下の市町村への転出割合が多くなっている 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世帯の住宅購入の機会において、住宅のゆとりを求める世帯が京都市から転入 一方で近隣の市町村へ一定数が転出していると考えられる 保育サービスの多様性※において、京都市と比較すると高い傾向にあることから、子育て世帯の転入理由の一つとなっていると推測される 	<ul style="list-style-type: none"> 宇治市人口ビジョン 地価公示

※ 仮説において言及している「男女の雇用均等」「人々のつながり」「子どもの頃の経験」「保育サービスの多様性」といったまちの特徴に関する要素は、京都府「地域子育て環境「見える化」ツール」で比較・分析している項目名を指す